



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：最近の女子学生による抗議に対するハーリド・アンガリ高等教育相発言
(31日付ワタン紙ほか)

7月31日付ワタン紙と8月1日付オカーズ紙は、プリンセス・ヌーラ女子大学およびタイバ大学女子部門における女子学生（大学への入学希望者）による抗議行動、そして、この件に関するハーリド・アンガリ高等教育相の発言などについて報じている。

1. 7月31日、リヤドのプリンセス・ヌーラ女子大学前に、約300人の女子学生（入学希望者）が入学機会の付与を求めて集まり、治安当局が出動した。
2. 7月30日、ヤンブーのタイバ大学で、入学登録の打ち切りを受け100人以上の女子学生が文学部前に集まり、治安当局が介入した。
3. 7月30日、ハーリド・アンガリ高等教育相は、本年のすべての高校卒業者に対し、次のように発言した。
 - (1) 性急さに陥らないことと「忍耐」を求める。
 - (2) 特定の専攻だけを望むのではなく、社会サービス・生涯教育分野などの専攻も考慮に入れるべきである。
 - (3) この数日のうちに大学は受け入れ能力を向上させる。
4. 今回の事案は、すべての願書提出者が入学を許可されるという噂（実際には事実ではない）を信じた女子学生が大学に押しかけたものである。女子学生たちは、すべての願書提出者への入学許可が事実無根の噂だとわかると怒り心頭に達した。

中東調査会注

サウジアラビアでは、高校の成績に応じて学生の大学への入学が決定するが、希望の専攻に進学できるものは少ない。通常、大学合格者の氏名は各大学ホームページ上で発表される。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799